

「船橋日大駅前防犯ボックス」の廃止通知にかかる自治会対応について

- ✓ 千葉県から突然の「船橋日大駅前防犯ボックス」令和 4 年 3 月末廃止通知あり。
- ✓ 船橋市に運営は引き継がれず、令和 4 年 4 月取り壊し予定。
- ✓ 治安悪化に繋がる事態であり、自治会として、千葉県や船橋市への防犯ボックスの継続要請（陳情書、署名運動等）を早急に検討中。

（説明会の内容は、千葉県作成の別紙「船橋日大駅前防犯ボックスの今後について」をご参照）

- 令和 3 年 10 月 9 日、坪井公民館にて千葉県主催の「船橋日大駅前防犯ボックス地元関係者説明会」があり、令和 4 年 3 月末をもって防犯ボックスを廃止するとの表明があった。千葉県からは、同防犯ボックスは、モデル事業の 1 つとして平成 28 年 1 月に設置し運営をしてきたが、地域住民の安心感の向上や地域防犯活動の質の向上への寄与など一定の効果が見られたこと等により、モデル事業としての役割は終えたことが理由としてあげられた。
- 代替手段については、千葉県は船橋市への防犯カメラ等の助成金で対応し、市は防犯ボックスの継続は難しいが、防犯カメラの設置、パトロール資機材購入の補助、青いパトロールカーで対応するとの説明であった。しかしながら、現状すでに実施しているため実質代替案となる内容ではなかった。他の町会・自治会等からも、今後の治安に対して不安との意見が多くあがった。
- 今回の説明会は、実質、県が防犯ボックスを廃止することを表明するだけの突然の一方的な廃止通知であり、廃止にかかる住民への事前ヒアリングもなく、廃止結論ありきの内容。また、船橋市への運営移管が可能か、どれほど県と市で議論がなされたのか見えない。
- 防犯ボックスは存在自体に犯罪の抑止力効果があり、坪井中、坪井小等子供が多い当地区において住民に安心感を醸成させる存在。当地域では従来から交番設置を希望してきたが実現せず、平成 28 年以降防犯ボックスという形で代替されてきたが、一度廃止すると防犯ボックス再開には相当の労力が必要と思われるほか、従来から要望している交番設置も見えない状況。コロナ禍、今後の治安への不安も大きい。
- 千葉県（主導）や船橋市は防犯ボックス設立に関わった責任がある中、今回の廃止にかかる実質的な代替手段を講じておらず、とても責任を果たしたとは言い難い。自治会として、千葉県や船橋市への防犯ボックスの継続要請（陳情書、署名運動等）を早急に検討中。
署名運動を実施する場合は、ご協力をお願いします。